

仕事ばかりの FBI 捜査官と宿敵の女が、ひよんなことから羊の毛刈りをさせられて仲良くなる話

サンダー・シープ

リライト 大岡俊彦

登場人物表

ジャック（50）

CB捜査官。仕事人間で、過去に妻子に捨てられている。

リタ（30）

運び屋。

マイケル（15）

羊飼いの少年。捨て子で、祖父母に育てられた。

マフィアの部下たち

民間人

ジャックの元妻

ジャックの娘

ボス（40）

マフィアのボス。

○ニュージールランド首都、オークランド

逃げる赤いライダースーツの女（リタ、30）のバイク。
追いかけるマフィアの黒塗りの車たち。
窓から乗り出して銃を撃つ。
だがバイクは巧みに避け、当たらない。
狭い路地を見つけ、飛び込むバイク。
車は狭くて入り切れず、壁にぶち当たる。
運転している部下「クソッ！」

路地から出るバイク。
それを別方向から追って来る車。
屋根にパトランプを乗っている、覆盖面タイプのパトカーだ。

リタ 「しっっこいな！」
窓から顔を出す運転手のジャック（50）。

ジャック 「やっぱリタか！ この神出鬼没のメギツネめ！」
リタ 「ジャック！ アンタ非番じゃなかったの？」

逃げるバイク、追う車。

○郊外、羊の牧場のあるようなところ

緑の中の一本道。

と、羊の群れが道を横断しはじめる。
バイクの民間人は群れの前で止まる。

リタ 「ちっくしょ！」

ハンドルを切り、草地側に出て、羊の群れをかわして回避、逃走。

ジャックの車は羊の横断を待たざるを得ない。イライラするジャック。

隣で待つ民間人のバイクを見たジャックは、車から降り手帳を見せる。

ジャック 「EBIだ！ バイクを借りるぞ！」
民間人 「え？」

バイクを奪い、発進させる。
羊の群れの中をバイクで突っ切るジャック。

羊 「メエエエエエ！」
ジャック 「ちくしょう！」

羊の毛が抜けまくって、ジャックの新品の紺のジャケットにつきまくる。
ジャック 「せっかく買った一張羅なのに！」

○ 同、一本道

逃げるリタ、追いついたジャックのバイク。

リタ 「しつこいオッサンはモテないわよ！」
ジャック、ハンドルから手を離して、バイクにまたがったまま立ち上がる。
両手で銃を持ち、一発。

リタのバイクの後輪にヒット。

リタ 「あッ！」

コントロールを失い、小屋に突っ込むリタ。小屋の中の干し草が舞う。

ジャック、バイクを小屋に止めて、銃を構えて突撃。

○ 小屋の中

ジャック 「FBIだ！」

とリタに銃をむける。

干し草まみれになって、両手をあげるリタ。

リタ 「知ってるわよ。なんでアンタが非番の日に、しかもニュージーランドにいるのよ？」

ジャック 「なんでお前がオークランドのマフィアに絡んでんだよ」

リタ 「私は運び屋なんです。潜入捜査？」

ジャック 「娘の誕生日なんだ」

リタ 「は？」

ジャック 「別れたカミサンがここに住んでんだよ。今夜は娘の誕生日なんだ。そんな日に厄介ごと起こしやがって」

と、牧羊犬がワンワンと二人に吠える。
その隙に逃げるリタ。

リタ 「はあ？」

羊たちの群れに巻き込まれる。

羊たち 「メエエエエエ」

干し草を食べに来たのだ。

ジャック 「なんだよ！ コラ！ 舐めるな！
このジャケット新品なんだぞ！」

羊たち、ジャケットをべろべろなめたり、啞えたり、そしてさらに毛まみれになる。

リタ 「なんなんのよ！」

リタは髪の毛がぐちゃぐちゃ。

と、羊飼いのマイケル（15）が。

マイケル 「あんれー、オメエら、誰だ？」

リタ 「誰だじゃないわよ！ 大人しくさせてよこの羊！」

マイケル 「メシの時間だから気が立ってんだ」

× × ×

干し草を食いまくる羊たち。

リタは干し草まみれで手錠。

ジャックは毛とよだれまみれ。

リタ、ハッと気づいて髪を触る。

ジャック 「おっと、また新兵器か？」

リタ 「違うの！ チップがないのよ！」

ジャック 「？」

リタ 「ウィッグに編み込んだのに……まさか羊たちに食われた？」

ジャック 「なんだって？」

リタ 「GPS出していい？ 羊の毛の中に絡んで紛れ込んだ可能性もある……」

発信機を出して確かめる。

リタ 「この羊たちの中の、どこか」

ジャック 「チップの中身は麻薬の顧客名簿だろ？ FBIが独占したいところだ」

リタ 「……まず私たちが手を組まない？」

ジャック 「？」

小屋には羊用のバリカンが置いてある。

○小屋の外

作業中のマイケル少年。

二人がバリカンを持って現れる。
マイケル「おや、夫婦喧嘩は終わったんかい？」

リタ「夫婦じゃないわよ！ コイツが勝手に私を追いかけてるのよ！」

マイケル「ははは。ダメだなあ。もつとガツーンと牡牛みたいに突進しないと、女は口説けねえぞ」

リタ「ガツンと毎回来るから嫌になるのよねえ」

ジャック「うるせーな」

と言いかけたジャックの口を、バリカンでふさぐ。

リタ「私たち、ボランティアで羊の毛刈りをやってるの。丁度毛の生え代わりの時期でしょ」

マイケル「ほんとか！ 助かる！ 年老いたじっちゃとばっちゃとオラだとしんどくてさー！」

ジャック「？」

マイケル「ああ、お父とお母はマフィアを怒らせて殺されちゃったんだ」

リタ「そう……お気の毒に」

ジャック「マフィアは、いつかぶっ潰す」
マイケル「？」

リタ「(ジャックに小声で) バカ、そういうなのはいいから！ (マイケルにつくり笑顔で) とにかく全部私たちに刈らせて！」

× × ×
バリバリとウールが刈られていく。
手際のよいリタ、下手なジャック。

リタ「アンタ下手糞ねー」

ジャック「銃しか持ったことのない男が、毛刈りなんてできるわけねえだろ」

リタ「娘さんの髪とか切ってあげたりしなかったの？」

ジャック「神出鬼没のリタを捕まえるために、家に帰ったことなんてほとんどねえよ。娘の手すら握ったことねえさ。銃しか持ったことねえってのは大げさだった。バズーカ

もマシンガンもロケットランチャーもあったわ」

リタ 「ニューヨーク、パリ、あと南極か」

ジャック 「世界中で追っかけたからな」

リタ 「一度も捕まえられなかったくせに」

× × ×
全部終わった。

リタ 「終わったー！」
発信機を確認。

リタ 「ウールの中よ。羊が食べたわけではないみたいね」

そこへマイケルが。

マイケル 「ありがてえー！ 羊たちもすつきりして気持ちよさそうだべ！ でも仕事はこれで終わりでねえんだ」

ジャック 「？」

マイケル 「こっからより糸にして、羊人形をつくってんのさウチは」

顔を見合わせる二人。

マイケル 「それやってくれたら、別の仕事がおラできるんだが……」

二人 「やりましょう！」

○作業小屋の中

人形作りをする二人。

リタ 「アンタホント不器用ね！ まだ一個も出来てないの？」

並んだリタの大量の羊人形に対して、ジャックのつくっているのはでかすぎるし、下手糞だし、全然未完成。

リタ 「これじゃまるで羊人間だわ！」

ジャック 「……娘の、誕生日プレゼントにしようと思ってるんだ。ちょっと黙っててくれ。一回もこんなことやったことねえけど、やってみてえんだ」

リタ 「……いいけど、日が暮れるわよ」
ジャック 「よし、もう一個できた」

作り上げたのは全然小さい羊。

リタ 「ほんとへたくそねえ！」

と、こっそり一本の毛を大きい羊のほうに編み込む。

突然、外に急ブレーキの音。

どやどやとマフィアの部下たちがやって来る。

部下1「見つけたぞ！ チップはどこだ！」

部下2「（発信機を見て）あの人形のどれかです！」

部下1「よし、全部持っていけ！」

ジャック、銃を抜こうとする。

部下3「おっとこっちには人質がいるぜ」

こめかみに銃をつきつけられたマイケル。

マイケル「助けて！」

部下1「あと、リタにボスからお電話だ」

スマホから声が。

ボスの声「やってくれたな運び屋。早く俺の所にチップを戻せ。お前の子供を捕らえるのは簡単だったよ。迎えの車に乗らないと、10分に1分ずつ、子供を殺すぞ？」

リタ「それはやめて！ チップは人形の中よ！」

部下1「よし、リタと人形まるごと連れてけ。どこに隠したか吐かせるんだ」

○小屋の外

リタと人形を載せ、去る車。

解放されたマイケルとジャック。

ジャック「……両親の仇を打ってくる」

バイクにまたがり、エンジンをかける。

○羊祭り会場

観光客用に祭りの準備中。

羊の鉄仮面が飾っており、鉄板焼き用の鉄板を準備中。

そこにジャックのバイクが来る。

○マフィアのマジト、廃墟

檻の中に捕らえられた子供たち。
大量の羊人形をスキャンしている部下。
縛られているリタ。

ボス 「早くどれか吐いちまえよ。拷問する
か？」

リタ 「子供たちを解放して」

ボス 「チップがどの人形か分ればな」

そこにドーンと扉をぶち破って、ヒーローの登場だ。

ボス 「なんだお前は？」

鉄の羊の仮面をかぶり、羊の皮を胴体に巻いている。
部下たち、一斉に銃を撃つ。

鉄仮面が銃をはじき、羊の皮の鉄板も銃をはじく。

ジャック 「俺の名はサンダーシープ」

目にも止まらぬ速さで銃を抜き、部下を全員殺す。

ボス 「……雷より速く銃を抜くやつがFBI
にいと聞いたことがあるが……」

ジャック 「そいつと俺は関係ない。俺はサン
ダーシープ」

銃をボスに向ける。

ジャック 「檻のカギを出せ。丸腰のやつは撃
たん」

ボス 「信じるかよ」

ジャック 「羊は嘘をつかない」

ボス、檻のカギを投げる。

視線が動いた隙に銃を抜くボス。

だがそれより早くサンダーシープの銃
がボスを撃ち抜く。

× ×

解放される子供たち、ジャックにだき
つく。

子供 「サンダーシープー！」

ジャック 「リタお前思ったより子だくさんな
んだな」

リタ 「バカ、スラムの子供たちよ。私の子
供として育ててるの」

ジャック「いいところあるんだな」

リタ「……ふん」

大小の人形を渡すリタ。

リタ「子供たちを助けてくれたお礼よ。娘さん喜ぶわ」

○レストラン、夜

娘、元妻、ジャックがテーブルに。

娘「なんかお父さん羊臭くない？」

ジャック「えっ？」

あわてて紺のジャケットを脱ぐ。

不格好な羊人形大小をあげるジャック。

微妙な喜び方の娘。

それを物陰から見ているリタ。

リタの子供「サンダーシープがお父さんだっ

たらいいのになー」

リタ「は？ 何言ってるの！ そんなこと

あるわけないでしょ！」

リタ、顔が真っ赤に。

娘の手を握るジャックを見ている。

おしまい。